



No.12	2013・1・1
NPO 法人 まついだ森の家	
〒379-0211	
群馬県安中市松井田町上増田670	
TEL/FAX 027-393-0655	

里山歳時記

オメデトウゴザイマス 平成となって25年、四半世紀である。大笑いすることはあまり期待出来ないけれど、ハハハぐらいにはいつも笑っていたらと思う。

昨年はダラダラと暑い日が長引いて秋口まで夏であった。そんな事も関係があるのか12月にもなるというのにヤマカガシが道端に居る。いつもだともう土の中あるいは木の根元とか岩の隙とかにもぐって冬の段取りだと思われぬのに、しかも全身をまっすぐにした格好でそこに居る

車にやられたかな
と、思ってチョイと触ってみると、10/10と枯草の中へ逃げた。冬になる前に一度棒の様になってこの一年のストレスを癒してから土にもぐるという事らしい。ヘビのストレッチと思われぬ。水辺に近い所ではマムシなどもいて気を使うし、フクロウも居る。タカも居る。人が居る。アライグマも居る。これ皆ストレス。ヘビと云えば昔はもう少し神様に近い扱いであったのに……。

本年は巳年。10/10と地を這って生きて行くというはどうだろう。

文・イラスト 石橋

しだれざくら

花

ア

ル

バ

ム

～冬から春へ～



ろうばい



うめ



photo by kusumi

ようこそ松井田へ

小林 脩さんのお宅訪問

松井田町九十九地区にある津雲神社の階段の昇り口に、神社の森に守られているように、松井田町でもあまり見かけなくなってしまった古民家が静かにたたずんでいます。今回の訪問の小林脩さんのお宅です。畑だったと思われる前庭に、芝生を敷き詰めたミニゴルフ場のようなアプローチの練習場があり、玄関にはゴルフバッグがありました。

昔、土間と馬小屋だった部分をリホームし、天井の高い昔からの梁は無言でこの家の歴史を語っています。来る者をホッと暖かく迎え入れてくれるが小林さんの家です。

第二の職場の退職を期に、約4年前、50年ぶりに生家のある松井田に帰って来ました。緑と花につつまれた庭先でゴルフの練習をしながら余生を過ごしたいというのが永年の夢でした。



ご家族は、奥さまがお仕事で東京におり、息子さんご家族はオーストラリアに赴任中。建設省（現国土交通省）在任中は、九州の博多、広島に赴任の経験があります。松井田には、先輩や同級生などの知り合いも多く、また、行く先々で、その土地の人たちとの良い出会いがあるというのは、そのお人柄なのでしょう。

現在は安中市のシルバー人材センターの派遣で、月10日程度坂本浄水場のお仕事。お庭のお手入れ、

ゴルフ、地域の行事、旅行会、ボランティア活動などに積極的に参加し、「まついだ森の家」の副理事長としても活躍中です。

「田舎に住んでみて、春先から秋にかけて、朝窓を開けて新鮮な空気を入れるのが気持ちいいんです。特に雨上がりの朝の清々しさは、都会では味わえないものを感じ、帰って来て良かった。」と話された時の顔が、何とも言えない良い表情でした。

趣味は読書で、ノンフィクションの歴史物が好きです。

また、月2回位のゴルフ、日帰り温泉の入浴、ドライブ、映画鑑賞など健康管理を行いながらお元気で、故郷の生活を満喫されているご様子です。



（内田記）

「サポートひかり」訪問記

安中市障害児者生活サポートセンター内にある、居宅介護・行動援護・移動支援事業所「サポートひかり」を訪れました。

エルピスあけぼのに隣接した広い敷地に、今年の4月開所したばかりの真新しい建物に事務所があります。この建物には、サポートひかりの他、単独型短期入所事業「オクターヴ」・放課後等デイサービス「紙ひこーき」の3つの事業所が入っています。



まだ新築の匂いがする広々とした玄関に出迎えてくれたのは、ひかりの責任者である内堀幸恵さん。いつも満面の笑みで、はつらつと楽しそうに働いています。何でも安心して相談できる頼れる存在。

一通り施設内を見学させてもらった後、事務所でお話を伺いました。サポートひかりは、障害があっても自分が住んでいる地域で安心してその人らしく生活ができますように、という想いで平成22年6月にサービスが開始されました。

在宅支援・余暇支援・移動支援を柱に、自宅での食事の用意・掃除・洗濯・繕い物などの家事全般、買い物・映画・カラオケなどの外出活動（交通費等一部実費あり）、入浴の介助や病院への付き添い、身体的に重度の方の介護もしてくれます。

我が娘（中1・療育A1&身体3級）も今年の夏は、市内のプールに何度も連れて行ってもらったり、スーパーで買い物をしたり、電車に乗って高崎に行ったりと、随分利用させていただきました。親以外の人との外出は、将来どうしても必要になってくることなので、今からこういった様々なサービスを利用して、少しずつ学習しているところです。

今のところ、移動支援を利用して余暇活動をしている方が多いという事ですが、今一番内堀さんが懸念されているのは、「もっとこのサービスを必要としている人がいるはずなのに知られていない」ということ。過剰な個人情報の保護が邪魔をして、こちらから個人へのサービスの情報提供ができないのが一番の悩みだそうです。親が高齢で思うように面倒を見てもらえない、身寄りがいない為に一人暮らしをせざるを得ない等の理由で、不自由な生活を余儀なくされている方にもっとサービスを受けてもらいたいとの事。皆さんの周りにそういった方がいましたら、是非サポートひかりを教えてあげてください。きっといい方向に向かうはずです。

(児玉 記)

サポートひかり

〒379-0133 群馬県安中市原市 1544-11

安中市障害児者生活サポートセンター内

TEL 027(393)6656

みんなお客様が いらっしゃいました

藤岡のかんなの里（入所施設）

かんなの里ではグループ旅行が盛んです。ご本人の希望と持てる力に合わせてグループを組みます。3年前から森の家をご利用ですが、「一般の宿では宿泊が難しい方（行動障がい強い）がいるので」との理由からでした。宿泊にあたっては、職員さんの並々ならぬ配慮・準備があり、無事楽しんでいただきました。翌年からはご当人の要望もあってのご利用です。1年ぶりに玄関に入ってくる時の大笑顔。夕食後はこれも初回から恒例の、地元音楽療法ボランティアさんのリードで歌ったり遊んだりの楽しいひと時。ちなみに今年の旅行先は、茨城のアクアワールド水族館&北毛方面 BBQ・田園プラザ散策・ぶどう狩りでした。

つくしの会（横須賀市ダウン症児者の会） 社会人部会

森の家利用歴10年を超えるスーパーおなじみさんで、今回はご本人9名+ボラさん6名。森の家周辺は行き尽くしてしまったので栃木県まで足を伸ばし、足利の「ココファーム」（こころみ学園のすばらしいブドウ畑とワイナリー）でランチ→足利フラワーパークのイルミネーションを堪能し、森の家泊。翌日は浅間隠し温泉郷「かやぶきの郷」でそば打ち体験をされました。

ご希望に沿った季節の現地情報をご紹介、プランをご一緒に作るのも森の家の役目であり、楽しみでもあります。



Aさん、ヘルパーさんとの2人旅

Aさんは横浜の作業所に通う29歳・脳性まひ・車いすの女性。旅行とグルメ大好き。以前はご家族でお泊りでしたが、親離れの時期にて、このところお気に入りのヘルパーさんとの2人旅。今年は、森の家がテント出店した「のぞみの園フェスティバル」を楽しんでから森の家にin。翌日は、メインイベント「高崎メトロポリタンホテルで豪華ランチバイキング!」。大満足だったとお母さんからご連絡をいただきました。

（入浴は安中の介護施設、福祉車両は社協のご協力をいただきました。ありがとうございました。）

Kさん、がん治療後の療養先として

精神医療の現場で全力疾走してきたKさんはがんを告げられ、即手術。まだ回復しないココロとカラダを抱えて一人暮らしのマンションの戻るの・・・ということで森の家を紹介され1週間の滞在。里山の自然の中の非日常空間で、ヘルシーな食事、ハーブのお風呂、何気ない会話等々、日ごとに回復して行かれました。その後も、抗がん剤治療の度、予後の静養に森の家を利用され、時には森の家スタッフが病院にお迎えに行くこともあります。今は、地域に根差した新たな事業「ハートワークス」の構想で頭がいっぱいです。

トモロの森（高崎・通所施設）

森の家では、5月から11月まで、毎週木曜日「森Café」をオープンし、美味しくて体に優しいランチとスイーツをお出ししてきました。トモロの森の皆さんは、グループに分かれて順次ご利用。周辺散歩等と組み合わせて、里山の小半日を楽しまれました。（中には順番が待ちきれずに、独自に視察?に来る方も。）帰る時の満足げな笑顔と「美味しかったです。」「ご馳走様でした」の言葉に、元気をもらいます。

少数派の悲しみと百年の友情。

てんてん
転々

世の中は、なんでも多数決で決まるということを思い知らされたのは確か10才の頃です。遠足に行く時の班を決める時、好きな子同士で集まるか、くじ引きで決めるかで意見が割れました。私はくじ引きを主張しました。「好きな子同士で集まると、嫌われて余る人間が必ず出るじゃないか」という意見を述べました。「多数決で決めよう」ということになり、その結果、好きな子同士で班を作る案が採用されました。そして、私の予想通り、余った人間が出ました。…私です！

多分無理やりどこかに配属されたのでしょうが、遠足が不愉快だった記憶はないので、なんとかうまくいったのでしょう。しかし、今なお心に刻まれているのは、「だから言ったのに！」という怒り。そして、多数決の論理への疑問です。多数決で決めれば、確かにほとんどの人が満足する結果が得られる。だけど、時に、少数ではあるけれどつらい思いをする人間が出る。それは私かもしれないし、あなたかもしれない。何よりも、多数派の意見のほうが正しいとは限らない（私は今でも誰かを仲間外れにする危険性があるのに好きな子同士でグループを作るのは間違っていると思っています。その結果ほとんどの人間が楽しい経験が出来たとしても）。

その後、統合失調症を患った私は、子供の頃よりもさらに少数派になりました。私と同じような年恰好の人はたいてい結婚しているし、仕事も充実しているし、育児に悩んだりしているみたい。独身で、無職で、さほど金回りがいいとはいえず、子供がいない代わりに病気の再発を心配している私のような人はめったにいないみたいです。だけど、自分と同じような人と悩みを分かち合うのは怖いのです。病気の当事者それぞれが心に傷を抱えていて、何がきっかけでその傷に塩を塗ってしまうか想像がつかないものだから…。

今、同じ時代を生きている人と上手くいかないかわりに、私はよく古い本を読みます。大抵は詩集か、エッセイです。6年前、病気が再発して入院していた時、萩原朔太郎の詩と文章は、私をととても励ましてくれました。たとえばこんな文章です。

「人間は一人一人にちがった肉体と、ちがった神経とをもつて居る。我のかなしみは彼のかなしみではない。彼のよろこびは我のよろこびではない。人は一人一人では、いつも永久に、永久に、恐ろしい孤独である。原始以来、神は幾億万人といふ人間を造った。けれども全く同じ顔の人間を、決して二人とは造りはしなかつた。人は誰でも単位で生れて、永久に単位で死ななければならぬ。

とはいへ、我々は決してぽつねんと切りはなされた宇宙の単位ではない。

我々の顔は、我々の皮膚は、一人一人にみんな異って居る。けれども、実際は一人一人にみんな同一のところを持って居るのである。この共通を人間同士の間に見出すとき、人間間の『道徳』と『愛』とが生れるのである。この共通を人類と植物との間に見出すとき、自然間の『道徳』と『愛』とが生れるのである。そして我々はもはや永久に孤独ではない。」

（萩原朔太郎 月に吠える 序文より）

入院中、私は何度となくこの言葉を読み返し、ノートに書き写しました。決して世の中の多数派にはなれないし、どこまでいっても孤独な自分だけ、はるか昔に死んでしまったこの詩人とは、もしかしたら友達になれそうな気がしたのです。そして、たとえ同じ時代に生きることはなくても、百年先の誰かが私を友達と呼んでくれるかもしれないという希望が湧いたのです。

多分私は、生きている間は、この先も誰かと意気投合して友情を結ぶということは少ないでしょう。今は何のために生きてきたのか判らない時もあるけれど、百年後の友達のために、今を精一杯生きようと思っています。

転々（ペンネーム）・・・名古屋市在住。物書き志望。縁あって森の家に宿泊されたお客様です。

この文章に対するご感想などをお寄せください。 → reiko-daidoji@mva.biglobe.ne.jp

こんなイベントありました

10月14日(日) **「高崎のぞみの園フェスティバル」テント出店**

10月21日(日) **「松井田夢伝」テント出店** スタッフ、ウォークに参加♪

「松井田夢伝」は今年で20周年を数えます。障がいがあってもなくても、秋の一日、松井田の町の中4キロのコースを、思い思いに、共に、行こう！というイベントです。

10月28日(日) **「森の家さんぽ道プロジェクト」** 参加者21名。

雨模様でしたがそれぞれが、自主的に敢行。子供5名の参加も盛り上がり、草刈、球根植え、BBQを、楽しく終わりました。

「さんぽ道プロジェクト」は、森の家周辺の自然環境を保ち、整備し、皆さんに楽しんでいただけるさんぽ道としようというプロジェクトで、年に数回行っています。随時たき火、焼き芋、ゆず採り、裏山散歩、等々、お楽しみながら交流しつつ、作業しています。ハーブガーデン作りも行っています。よろしかったら、ご参加ください。

11月11日(日) **「フォルクローレコンサート グルーポ・レベラシオン」**

櫛の紅葉も盛りの秋の午後、52名の方々にお楽しみいただきました。

12月15日(土) **加藤久雄先生特別講演会「どんぐり亭物語」**

倉淵の山の中の「どんぐり亭」で、ひきこもり・不登校の子供たちと向き合う加藤先生のお話。

こんなイベントあります

工房あかね展 2月いっぱい 毎週(金)(土)(日) 10時~3時

「NPO法人工房あかね」(高崎)は、障がいのある方々の作品を世に出していく活動をしています。森の家では、昨冬もあかね展を開催し、80点余りの作品を、延べ300人以上の方々に、大変好評をいただきました。魅力的な作品たちに会いに、お出かけください。

10時開催 バザー・ワークショップ (チラシ参照 ブログでご確認ください)

坐禅断食会 1月27(日)、28(月)、29日(火)

ろうばいの郷 見頃は、12月下旬から2月中旬
(ろうばいの郷HPでご確認ください)

加藤久雄先生の講演会を終えて

いつ聞いても先生の教えは、単純明快ずばり直球で、私達の心に食い込んできます。その単純さ明快さゆえに、すーっと心に落ち、聴く者にすごく勇気と元気を与えてくれると、この度また強く感じました。そのものは、どこから来るのでしょうか。それは、やはり先生の暖かさと、多くのご経験に裏打ちされた世界観に他ならないと思います。

例えば、「雲の上は青空」 そう、私達の頭の上には、どんなに黒雲がかかっているとしても、その上には必ず青空があるんだよ。今の悩みに負けないで、乗り越えたら青空だよと囁きます。

また、「秒速50cmの速さ」 現代人はスピード違反をしているようです。桜の花びらが散る速さ・蛍の舞う速さ・ぼたん雪が空から降って来る速さ、本来日本人が自然と共に培って来た速度そのものです。自然の生業に感謝し、ゆったりと生きなさいという先生からのメッセージだと思います。

森の家に入られてすぐ、先生は「ここは違う。空気が全然違う。みんなゆったりしている。」とおっしゃいました。森の家に入出入りしている間に、どうやら私達も少しは自然の速さを手に入れていたようです。そして、深層心理のところで、ありがたい言葉の持つ強さをも、手にしているのかもしれませんが。

講演会終了後、皆様からたくさんの感謝の言葉をいただきました。発起人として大変嬉しく思いますと共に、皆様に深く感謝申し上げます。（高橋記）

加藤先生お薦めの参考文献

- ・「奇跡の脳」 ジル・ボルト・テイラー （新潮社）
- ・「日日是好日」 森下典子 （新潮文庫）
- ・「ミルトン・エリクソンの心理療法」 ジェフリー・ザイク （二瓶社）
- ・「すべては宇宙の采配」 木村秋則 （東邦出版）
- ・「あなたのために」 辰巳芳子 （文化出版局）
- ・「整体法の基礎」 野口晴哉 （全生社）
- ・「思考場療法入門」 ロジャー・J・キャラハン （春秋社）

加藤先生の著書 「どんぐり亭物語」 海鳴社

アスペと身体的つながり

アスペルガー症候群とは、発達障害の1つで、脳の機能や感覚・認知に偏りがあるが、知的での障害がない自閉症の一種

アスペルガー症候群の堀越風人です。松井田高校の1年生です。

前回はアスペルガーの社会的生活について書いたので、今回は身体的なものを書いていきたいと思いません。

人によって身体的な特徴は様々です。僕の場合は聴覚が過敏で、ゲームセンターや映画が苦手です。耳に響くところがかなりのストレスになります。なるべくそういうところには近寄らないようにしています。

温度調節もよくできません、暑さ寒さをあまり感じないのです。そして一度寒いと感じるとセーターを三枚着たりします。服の着方などはよくわかりません。好きに着ればいいわけではないようです。

でも、そういうところの感覚は当事者に特に問題ない場合、本人に任せた方がいいと思います。どんなに寒そうでも、本人は暑いのです。どうしても風邪を引いてしまいそうなときは、できるだけ説明をしてあげてください。

健常者の常識を押しつけるのは当事者に不信感をあたえ、混乱させてしまいます。感覚だけでなくすべてのことに言えることです。

発達障害者の周りには頭を隅にとめておいてください。

編集後記

この一年、私にとって実りの多い年となりました。思っていたことが、形になった嬉しさと、今までの経験が、一つの道に通じることを知り得た喜びを味わうことが出来たからです。それもこれも、森の家があればこそ……。ありがとうございました、関わってくれた皆様。(Y)

森の家の館内を飾る花は、すべて森の家周辺で調達します。真冬でも何かしらあるのです。ロウバイの大枝が届けられたりもします。早朝から花を集めてお客様の顔ぶれを思い浮かべながら活け込むのは、森の家の欠かせない仕事であり、私の役得です。野に咲く花や緑を活けるのはとても楽チン。なぜなら、みんな勝手に曲がっているから。それを組み合わせるだけで自然に素敵になるから。里山の豊かさに感謝。(T)

原発事故が大きなきっかけとなり、「自分で決めて、自発的にうごく」ことを意識するようになった。人任せ、国任せじゃあ、いつまでたっても明るい世界は創れない。そして、同じことをしていても自発的な方が断然楽しい。通信の編集も、こうしたらどうかな？とあれこれ試行錯誤し、楽しませてもらっている。面白い紙面が創れたかな？(R)

通信の一読者から、原稿を書くのを頼まれるようになり、編集委員になり、今回からは、なぜか長に成り上がってしまいました。体がだんだん動かなくなって来たのになんでこんなことになってしまったのかと思いながら、優秀なサポーターに助けて貰いながら編集後記までこぎつけました。協力頂きました方々に心より感謝いたします。森の家から笑顔の輪が広がって行きますように。(U)

まついだ森の家 ご紹介

◎ ホームページURL <http://www.normanet.ne.jp/~morinoie/>

「まついだ森の家」で検索してください

ホームページトップから、ブログをごらんになれます。

*まついだ森の家のホームページは、視覚障がいの方のための読み上げソフトに対応しています。

◎ ブログURL <http://matsuidamorinoie.gunmablog.net/>

「まついだ森の家里山日記。」で検索してください

◎ E-mail matsuida-morinoie-2007-npo@amber.plala.or.jp

まついだ森の家応援団会員 いつでも募集中!

NPO法人まついだ森の家は、二つの柱を立てて活動しています

- * いろいろなハンディをお持ちの方とその支援者に対して
気兼ねなく泊まれる宿と、交流の場を提供する。
- * 里山の豊かな自然環境を発信していく。

その存在を応援して下さる方々が「応援団会員」です。

年会費は 10,000円、3,000円、1,000円 です。

「まついだ森の家通信」年2回と、各種イベントのご案内をお送りいたします。よろしくご支援ください。

お振込先 ゆうちょ銀行 口座番号 00100-9-631710
加入者名 NPO法人まついだ森の家

応援団会員 お名前 (順不同・敬称略)

秋山博明・広子 天田和也 新井牧子 安藤洋子 安藤千枝子 五十嵐聖子 池田誠司 池田直子 石井昭子 石井義通 石川理恵 石田英治 石田実可子 石橋興子 石原作知子 石渡正敏 石塚彩子 伊東葉子 今井悦子 岩井均・智子 岩崎和子・久人 岩崎賢江・正守 岩崎俊明 岩鼻愛里・瑠美 上泉歩 上杉洋子 上原君代 上原恵子 上原静子 上原明子 潮忠男・晴美 内田武夫 内堀幸恵 悦永昭子 大久保妙子 大崎千都子 大里和代・健一郎 大島真弓 大塚聖子 大塚寿子 大西和子 岡寿子 岡崎恵美子 岡島春枝・佳樹 岡庭秀雄・潤子 沖山雪子 小野寺光源・かなえ 織茂加代子 影山敦子 影山太一 影山晴子 加藤聖午・亨・恵美子 金井伸一郎 金子修・光子 金子真梨子 狩野洋子 神山朝子 川島真理子 川田明美 神戸まさ子 北岡三知男 木下美幸 木村薫 木村紀子 工藤泰子 熊谷充子 栗田俊明 黒岩勢津子 黒羽正明 黒羽知代 小池光江 小井戸絵理子 黄スーヨン 郷原光子 小久保雅子 古溪理哉 小沼利光・美奈子・利樹 小林和夫 小林滋 小林脩 小林智子 小原敬太 小宮逸子 小室てる 近藤龍良・岳志 西尾陽子 西郷孝彦・敬子・空 坂本洋子 桜井三喜子 桜井ひとみ 佐藤和枝 佐藤和子 佐藤かほる 佐藤智久代 佐藤幸雄 渋谷妙子 渋谷惇江 島野健太郎 島村昌子 志村加代子 白石恵子 白川紀子 進藤陽一郎 神保弘 杉山すみ代 鈴木拓実 須藤いく子 須藤敏弘 大道寺彩子・玲子 高石知枝 高階康彦 高橋洋子 滝沢久美子 竹歳正子 竹中志津子 多田貴枝子 伊達富美子 田中和子 谷川弥 長義光 天田文子 富樫真澄 轟まさえ 中尾新之 仲世古隆臣・由香・隆貴 中田静江 中津瀬隆 中敏常雄・治子 中西雅人 中橋奈穂子 永沼勲・昭子 長山由利子 名倉康之 鳴嶋誠 南部康光 トシ子 光恵 根本幸宏・直子 納富沙織 萩原千栄子 蓮沼光世 早川恵子 林崎正史 原間啓史 平岡文弥・亜理子・大志 平林美恵子・茜理子 平林紹代 深津弥恵子 深谷智子 福田孝子・夏樹 藤尾孝枝 藤岡春樹 藤尾正明 藤尾正栄 古川佐喜子 星野幸一 堀越美妃 堀越風人 本多栄一・文弘 本田豊・奈穂 まーやの家 矢嶋洋子 松尾浩子 真庭孝子 黛恵美子 三浦由喜子 水沼潤子 南順子 武藤幸子 森下博子・修 薬師寺正敬 安川江美 柳沢さく江 山川賢治・玲子 山口かほる 山口テル子 山口淑子 山口久代・克美 山村孝子 山本美智子 油木時子 横田寛子 吉井貴志 吉岡荘太郎 吉田恒子 若林泰秀 渡辺聖 渡辺佳奈実

以上185名

まついだ森の家をご支援いただいている皆様へ

まついだ森の家 理事長 黒羽知代

2013年、新たな年を迎えました。
皆様お健やかに過ごしていらっしゃいますでしょうか？

まついだ森の家も、当初からは17年、NPO法人化してからは6年の月日を数えています。
皆様の日頃からのご支援に心から感謝して「まついだ森の家通信No.12」をお届けいたします。

この間、多少のことはありながらも、変わらぬスタイルでお客様をお迎えすることができました。さらに、たくさんの会員、ボランティアの方々のご協力を得て、様々な形のイベント開催、情報発信など、活動を広げてきました。地域の認知度も年々上がり、良いご縁の輪もさらにつながっています。

しかし、創設メンバーの年齢も上がっていることを考えますと、今後の森の家の継続性について、今年は本格的に検討していかななくてはならない、そんな年になります。新たな展開を目指したいと願って言います。ご支援いただいている皆様には、一層のご理解、ご協力をもって、その方向を見守っていただければと思います。

皆様に、心の平安と暮らしの平穏のありますよう、お祈り申し上げます。

なお、2011年度に東日本大震災の影響で激減した宿泊客数は、おかげさまで2012年度において後半回復を見せ、期末にはほぼ1昨年の水準に戻ることが予想されます。感謝してご報告申し上げます。

2011年夏に、原発被災の障害児のご家族の受け入れをしましたが、この夏もご本人のご要望で、再びいらしていただきました。また、福島県の被災地障がい者支援センター、南相馬ファクトリーとは、ひまわりの種を通じてのつながりが続いています。今後も、できることを続け、広げていきたいと思っています。